

開腹大腸癌の手術を受けられる患者さんへ

様

この予定表はおおよその目安です。患者さんの状態や治療の経過等により、予定が変更になったり入院期間が前後することがありますのでご了承ください。わからないことがありましたら、遠慮なくスタッフにご相談ください。

担当医

説明看護師

月日	/	/	/	/	/	/	/	/		
経過	入院日	手術前日	手術前	手術後	術後1日目	術後2日目	術後3日目	術後4日目	術後5~8日目	術後9日目
目標	手術を受ける準備ができる。			痛みがコントロールできている。 術後の安静を守ることができる。	創部に問題がない。 痛みのコントロールができて動くことができる。		食事を食べて腹痛がない。	お腹の管が抜ける。	食事を半分以上食べることができる。	退院後の注意点がわかる。
処置	お臍の処置をします。 弾性ストッキングのサイズを測ります。	弾性ストッキングをはきます。 メガネ、入れ歯、貴金属、時計などははずします。 看護師と一緒に手術室へ行きます。	酸素吸入をします。 心電図モニターを装着します。 お腹に管が入ります。 鼻から管が入ってくる場合があります。 背中から痛み止めの管が入ります。	酸素は朝7時に終了です。 回診で傷の状態を確認します。	→ 回診時にお腹の管が抜けます。 ※抜ける時期は変わることがあります。					
点滴	※食事がとれない方は点滴をします。			点滴をします。 血栓予防の皮下注射をします。	→ 点滴終了 ※食事の状況に応じて続ける場合があります。					
お薬	普段飲んでいるお薬とお薬手帳を確認しますので、看護師に渡してください。 下剤：15時 21時 抗菌薬：12時・18時 ※手術2日前入院の方は、6時にも抗菌薬があります)	指示されたお薬だけ朝7時までに内服します。		痛み止めとお腹を動かす薬の内服が始まります。 持参薬は医師に指示されたものを服用します。						退院処方がある場合はお渡しします。
検査	血液検査 			血液検査 レントゲン 		血液検査 レントゲン 		[術後6日目] 血液検査 レントゲン 		
食事	繊維の少ない食事を提供します。手術前日の昼食後から食事はとれません。※禁食の場合もあります。術前飲料水がでます。	指定の時間まで水分をとることができます。 □ 午前手術→朝7時まで □ 午後手術→朝9時まで	食べたり飲んだりすることはできません。 うがいはできますので、看護師へお知らせください。	状態により水分がとれるようになります。		術後の経過を見ながら少しずつ食事が始まります。 				
安静度	制限ありません。		ベッド上で安静に過ごし、起き上がることはできません。 体の向きを変えることはできますので看護師へお知らせください。	術後の経過が問題なければ、歩くことができます。 初回歩行は看護師が付き添います。	制限ありません。 術後の合併症予防と回復をすすめるために、歩くようにしましょう。					退院後、激しい運動は控えてください。 散歩程度であれば問題ありません。
排泄		排便があったらトイレは流さず看護師を呼んでください。	手術中に尿の管が入り、自然に尿が排出されます。排便はベッド上で行います。	尿の管は挿入したままで尿の管を抜きます。	背中からの痛みどめが抜けたら尿の管を抜きます。					
清潔	シャワー浴をします。 			温かいタオルで体をふきます。 歩行して問題なければ、弾性ストッキングを脱ぎます。	お腹の管が抜けたらシャワーに入れます。 傷を治すためにシャワーに入ります。					入浴は医師の許可が出てからになります。
説明指導	看護師から入院生活や手術後の経過について説明します。	ご家族の方は、手術予定時間の1時間前に病棟へお越しください。(9時予定の方は8時半頃)貴重品等はご家族に渡してください。	手術後、主治医からご家族に手術経過の説明があります。 痛みや吐き気などの症状がある場合は、我慢せずに看護師にお知らせください。					[術後5日目] 栄養士から食事についての指導があります。		午前中に退院です。 退院の書類をお渡しし、退院の手続きの説明をします。
その他	外来で手術同意書を記入していない場合は、入院後に医師から説明があります。		安全管理のため、ナースステーションに近い病室へ移動することがあります。	通常通りの面会時間にお越しください。					次回の外来の予定日の説明をします。 入院の概算が必要な方は早めにお知らせください。	



退院後、吐くことが続いて食事が取れなくなった場合は、腸閉塞の可能性がありますので、早めに受診してください。
高い熱が出たり、傷が腫れる、痛みが増すなどの症状がある場合、外来へご連絡・ご相談ください。